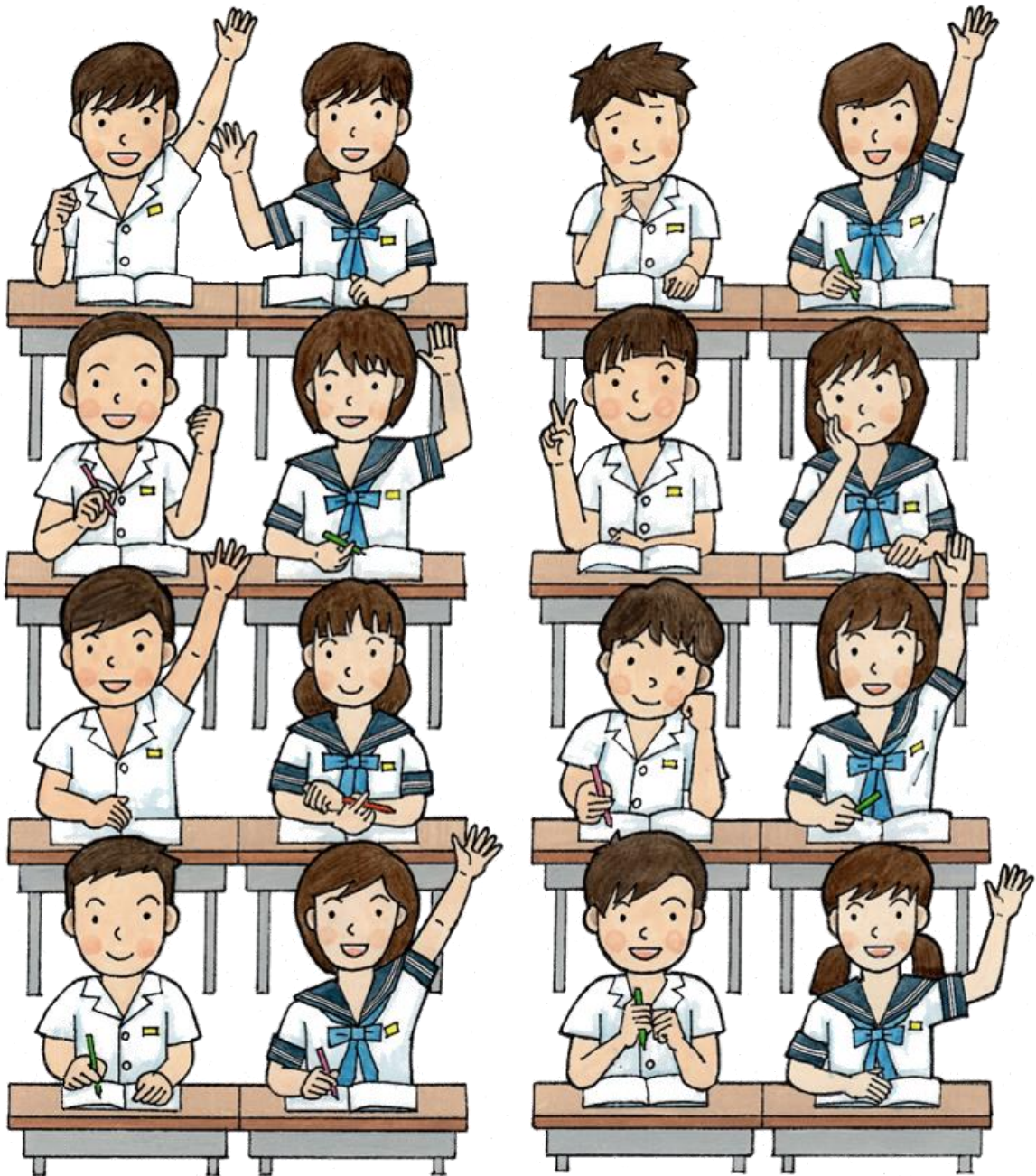


さぬきの授業

基礎・基本〔改訂版〕

～ 子どもに学びのときめきを～



平成29年3月
香川県教育委員会

はじめに

義務教育9年間の教育内容は、「子どもに学んでほしいこと」が濃縮されたものです。何を身に付けていればこれからの社会を幸せに生きていけるかは、誰も確かには分からない。それでも、子どもたちに幸せな人生を歩んでほしいと願わずにはいられない。これまでと今の社会を生きてきた大人の良心の結晶として、この時期に、この学びには触れてほしい、という思いを込めたものが、義務教育です。

このため、小・中学校の教育内容は、「子どもが学びたいこと」だけで構成されているものではありません。その日の子どもが「学びたいと思っていること」だけでなく、「その時の子ども自身は学ぶ意義を感じていないこと」や「学校の授業でなければ触れることがなかったかもしれないこと」などを学ぶところに、義務教育としての学校教育の意義があります。

だからこそ、「教えさえすれば、子どもは、当然に学ぶ」のでは「ない」ことを前提として、その日の授業を子どもの学びにつなげようと、目の前の子どもの状況に応じた仕掛けや指導などをする教師の力が学校教育の要となります。

子どもは、教えたように育つのではなく、学んだように育ちます。授業を通じ、「明日も学校に来て、先生の授業を受けたら、何かいいことがありそう。」と、子どもを学びにときめかせることが、義務教育を支え、子どもの幸せを支えます。

子どもの言動には全て理由があります。子どもの発達段階等に応じて、その理由を子ども自身が明確に意識したり言葉にできたりするかどうかは様々ですが、子どもほど、学ぶことに対して純粋で、かつ、自分が受けた影響に対して正直に反応する者はいません。

授業を受ける目の前の子どもは教師自身の鏡であると意識し、子どもに「学びのときめき」をもたらす授業を展開する一助として、本冊子が活用されることを願っています。



目 次

はじめに

I	教師の心構え	・・・	2
	◆ 教師の最も重要な仕事は授業です。		
II	授業づくり		
1	教師の表情・話し方	・・・	4
	◆ 先生、いつも明るい!話が分かりやすい!		
2	発問・助言	・・・	6
	◆ その一言で、はっと気付いたよ!		
3	指名、発言の取り上げ方	・・・	8
	◆ 発言すると授業が楽しい!聞いてくれるとうれしい!		
4	机間指導	・・・	10
	◆ 先生と話すと、自信が出てきたよ!		
5	板書	・・・	12
	◆ 黒板を見ると授業の流れや要点が一目で分かるよ!		
6	ノート指導	・・・	14
	◆ ノートを見れば自分の学びの足跡が分かるよ!		
7	グループ学習	・・・	16
	◆ 今日、自分たちだけでできたから、明日はきっと一人でできるはず!		
III	学習過程の充実・改善に向けて		
1	学習意欲を高める指導	・・・	18
	◆ 自分で決めた!できた!みんなで学ぶって楽しい!		
2	考える力を育てる指導	・・・	20
	◆ 先生、こう考えるといいと思う!		
3	子どもの実態に合わせた指導	・・・	22
	◆ なるほど、そういうことだったのか!		
IV	授業を支える学級経営		
	子どもの立場に立った褒め方・叱り方	・・・	24
	◆ 次も頑張ってみようかな		
	授業づくりを支える学級経営チェックリスト	・・・	26
	学びのときめき 5つの視点	・・・	28

I 教師の心構え

教師の最も重要な仕事は授業です。

● 責任感と緊張感をもって、一度きりの授業に臨む。

- ・ 教師には、子ども一人一人の豊かな学びの実現に向け、最大限の努力をする責任があります。
- ・ 「できた、分かった」といった喜びや学ぶ楽しさなどを授業で味わうことは、子どもの成長のエネルギーとなります。
- ・ 子どもにとって、その授業は一生に一度きりです。教材研究や準備を十分にして、緊張感をもって授業に臨みましょう。



● 子どもと教師で成り立つ授業を目指す。

- ・ 授業は、教師の指導と子どもの主体的な学習が折り重なって成り立つことが重要です。
- ・ 「身に付けさせたい力」を明確にして、授業を考えましょう。さらに、授業の過程が「身に付けさせたい力」を育むものになっているかを、子どもの姿を思い浮かべながら検討しましょう。
- ・ 教師が指導しすぎることによって子どもの思考場面を奪ったり、主体性を育むという名目で放任しすぎたりしてはいけません。授業時の子どもの反応に呼応した仕掛けや指導などを行うことで、子どもの主体的な学習をさらに進め、その授業で目指す力の育成を図りましょう。

● 「学びのときめき」が授業の中にありますか。

- ・ 「明日も学校に来て、先生の授業を受けたら、何かいいことがありそう。」と子どもに思わせながら授業を終えるには、どうしたらよいでしょうか。
教えるべき知識・技能をしっかりと教え、練習により習熟させる。また、子どものつまずきや粗削りな表現などを起点として、子どもの思いや考え、判断や表現といった子どもの力を存分に引き出す。その中で、その授業で身に付けさせたい力を定着させましょう。同時に、自身の変容や学びを実感させ、学ぶことの充実感、達成感などを味わわせる授業を目指しましょう。



学びのときめきにつなげる授業工夫(例)

- ・ 自分で考えたり、表現したりする時間・場がしっかりある。
- ・ 少し困難な課題だが、達成感がある。
- ・ 分からないときは、友達に聞いたり、教師に質問したりできる。
- ・ 自分の考えを素直に発言しても受け止めてくれる雰囲気がある。
- ・ 発表したことに対し、意見や質問が返るなど、交流がある。
- ・ その時間のまとめを、交流の中から生み出す。
- ・ 授業中に学んだことや自分の変容が実感できる。
- ・ 学んだことが次の問いを生む。



授業は仕掛けの芸術。常に授業力の向上に努める。

- ・ 自分が「知っていること」「できること」と、「指導すること」は別物です。子どもと教師で成り立つ授業にするためには、授業力が欠かせません。
- ・ 自分から進んで、先輩、同僚、書籍などから学び、実践することにより授業力を高めていきましょう。

授業力向上のために①「授業を見る」

- ・ 授業力を高めるには、授業を多く見て具体的なイメージを得ることが大切です。
- ・ 視点や課題をしっかりと持って参観しましょう。
- ・ 授業を見るときは、教師の動きを見るだけでなく、子どもの動きを丁寧に見て、そこから効果と改善点を考えることが大切です。
- ・ よい授業を見る機会を、自分から求めていきましょう。

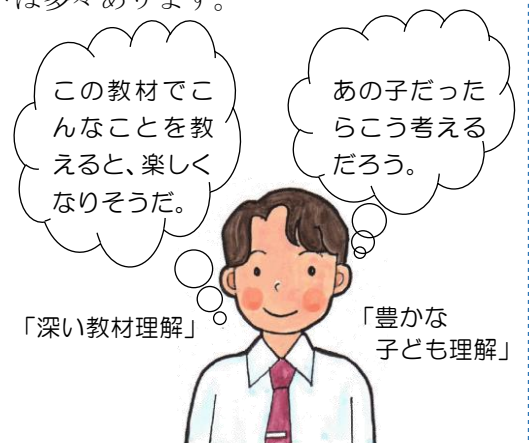


授業力向上のために②「授業を見せる」

- ・ 公開研究会だけでなく、日常の授業を見せ合う機会を持ちましょう。
- ・ 他者から自分の授業を評価されることで授業力は向上します。
- ・ 公開授業後の自己省察を今後の授業に生かしましょう。
- ・ 子どもは、授業の身近な評価者でもあります。子どもの授業中の様子や反応を見ながら、また、子どもの授業評価も参考に授業改善に努めましょう。

授業力向上のために③「教材研究を楽しむ」

- ・ 教師が面白いと感じて行う授業は、子どもにも面白さが伝わりやすくなります。好奇心を持ってものを見ようとすると、日々の暮らしの中にも授業のヒントは多々あります。
- ・ 書籍や研究冊子等を参考に先行事例に学びましょう。先行事例を参考にし、よいところを取り入れて授業を行うことは授業力向上に役立ちます。
- ・ 子どもの予想される反応を踏まえて授業を構想しましょう。その際、授業中の発言、態度、表情、ノートや様々なテストでの誤答の内容などの日々の学習状況を把握した上で授業を考えることが大切です。
- ・ 深い教材理解と豊かな子ども理解を踏まえて、授業の中で子どもに「身に付けさせたい力」を明確にしましょう。



ワンポイント！

子どもの心に火をつけよう

「今日の授業でこんなことを学んだ。」「あっという間に終わった。」「授業中わくわくした。」こんな感想は、教師にとってもうれしいものです。「凡庸な教師はただ伝える。よい教師は説明する。優れた教師はやって見せる。偉大な教師は子どもの心に火をつける。」(ウィリアム・アーサー・ワード)

研究授業参観や教材研究などを楽しみ、授業中の学びや子どもの変容を喜んでいる姿を子どもに見せましょう。

Ⅱ-1

教師の表情・話し方

先生、いつも明るい！話がわかりやすい！

● 教師の表情は、指導力の一部です。

授業の初めに、まず子どもが注目するのは教師の表情です。



教師の表情は、子どもの学ぶ意欲や姿勢に大きな影響を与えます。無表情であったり、気難しい表情やしかめっ面をしていたりでは、子どもたちの学習意欲は高まりません。

- ◆ 授業前に、鏡の前に立って表情を整えてから教室に向かいましょう。
- ◆ 授業中の姿を録画して、自分の表情や話し方を確認しましょう。



● 言葉に、豊かな表情を添えると、伝えたいことが強調されます。

教師の豊かな表情は、子どもの思考を促したり、意欲を高めたりすることにつながります。

<例>



● 身振り、手振りを組み合わせることで、表現が強調されます。

<例>



ねらいに応じた話し方を意識することで、伝わりやすくなります。

- 思いっくまま話すのではなく、話す内容を整理して話す
 - ・ 「これは、〇〇ということですね。なぜかという・・・」と結論を明確にしてから、根拠を話す。
 - ・ 「〇〇からはこう言えるね。つまり・・・」と具体でイメージを膨らませてから、結論を示す。
 - ・ 「今から三つ、伝えます」と、伝えたいことの数を示す。
- 子どもの言葉やつぶやきを引き出すように話す

先生が一から十まで話してしまっていないですか。子どもは一つの言葉でも発言して、「役に立った」、「答えられた」と感じると嬉しいものです。

(例)先生「えっと、これは・・・」とあえてとぼける。 → 子ども「それは、〇〇です！」
→ 先生「あっ、そうでしたね。よく覚えていましたね」と称賛する。
- あえて小さな声でゆっくり話す

強調したいところをいつも大きな声で話していませんか。あえて小さな声でゆっくり話すことで、子どもが話に集中することもあります。
- 子どもたちの活動を止めさせて話すべきか、止めさせるまでもないか、状況に応じて判断する

実験や話し合いなどの活動中の子どもたち全体に向けて先生が話しかける場面を見かけますが、子どもたちの安全を守るために伝えるべきことや活動目的、視点、手順の確認など、全員が共有すべきことは、活動を止めさせてから話しましょう。

聞き手を意識して話していますか？

★ 話し方「5つのチェックポイント」

- 声の大きさは、一番遠い子どもにもしっかり聞こえる大きさである。
- 話す速さは、子どもの発達段階にあった聞き取りやすい速さである。
- 子どもの顔を見て、表情や反応を確かめながら話している。
- 「あの一」「えー」などの不要な言葉を使わずに、間を取りながら簡潔に話している。
- 身振りや手振りを交えて話している。



話し手を意識して聞いていますか？

★ 聞き方「5つのチェックポイント」

- 子どもの話を最後まで聞こうとしている。
- 聞きながら、その子どもの伝えたいことは何かを再構成しながら聞いている。
- 机間指導の際、腰をかがめるなどして子どもと同じ高さに耳を置いて聞いている。
- 相づちをうったり、表情で関心を示したりしていることが伝わるように聞いている。
- 言葉につまったり間違ったりしていても、子どもの思いを受け止めながら聞いている。

ワンポイント！

子どもは教師の鏡

「子どもは親の鏡」と言われるように、「子どもは教師の鏡」とも言えます。教師が、子どもたちの表情や反応をしっかりと見たり聞いたりしながら授業を進めていると、子どもたちも、教師や友達の表情を見ながら話したり、意見をしっかりと聞いたりする態度が育っていきます。

Ⅱ-2

発問・助言

その一言で、はっと気付いたよ！

● 学習指導過程に沿って、精選し、計画的、意図的に発問する。

○ 導入時の発問（一気に授業に引き込む！簡潔に）

- ・ 子どもの学習経験や生活体験を探る。
- ・ 前に学習したことを確認させる。
- ・ 子どもの興味・関心、問題意識を高める。

〇〇について経験したことはありますか。

〇〇についてどうしてだろうと思うことはどんなことですか。



○ 展開時の発問（考えや思いを深めたり広げたりする）

- ・ 課題をつかませる。
- ・ ヒントや手がかりを与える。
- ・ 矛盾、対立、葛藤を生んでゆさぶる。
- ・ 発想の転換を図る。
- ・ イメージを広げたり、多様な考えを引き出したりする。

〇〇と□□を関係付けると、どんなことが考えられますか。

もし、この条件がなければ、〇〇はどうなりますか。

これらのことから、これから先どのようなことが想像できますか。



○ 終末時の発問（学習の結果を整理したり評価したりする）

- ・ 学習した内容を整理する。
- ・ 抽象化、一般化する。
- ・ 学習を振り返り評価する。

この時間で考えたことを、三つにまとめてみましょう。

今日分かった〇〇は、みなさんの生活の中のどんな場面で使えますか。



● 学習を深めるよい発問とは？

○ 簡潔、明瞭である

- ・ 何を考えればよいか全員に分かる。
- ・ 学習目標に結びついている。

Aグループの考えは、その他の全ての場合にもあてはまるでしょうか。



○ 広がり、深まり、方向付けがある

- ・ 想像、対比、批判を促したり、新しい考えを引き出したりする。
- ・ 意図的に相互の意見を対比させて、多様な考え方を引き出す。
- ・ 子どもに発問させ、それを学級全体で解決していく。

○ 具体的かつ的確である

- ・ どう考えればよいのが全員に分かる。
- ・ 絵や写真、図表などを提示しながら発問する。
- ・ 子どもの実態に合わせる。

〇〇ですね。さらに、『しかし』と考えてみたらどうなるでしょうか。



※ 発問に見られるよくない例

- ・ 子どもに考えるゆとりを与えないで、次々と問い詰めていく発問
- ・ 一問一答式の質問だけで進める授業展開
- ・ 観点が不明確な発問（例）「駅まではどのくらいかかりますか？」



タイミングよく、子どもの思考を方向付けるように助言する。

- 方向・目的・方法・技術などについて指導する

Aさんの考え方のよいところはどこだろう。

今まで勉強したことが使えないかな。前の時間のノートを見てみよう。



比べて考えることが大切だよ。

〇〇に着目して、同じ仲間に分けてみたらどうなるかな。

- 学習上のつまずきを明らかにし、適正な判断に基づいて学習の改善を促す

〇〇のことから考えているね。今度は□□のことからも考えてみよう。



あなたのやり方で、〇〇のところをやってみると、どうなるかな。そこがうまくいっている□□の人の意見を聞いて、別のやり方を試してみよう。

学習を深めるよい助言とは？

- 子どもの思考に寄り添い、共感的な言葉で、称賛や激励を
・ 何が、どうよいのか、具体的に褒めることが大切です。

〇〇が前回より大きく伸びたね。

- 子どものつづやきを全体に広げて

今、Aさんがいいことを言ったね。みんなにもう一度言ってくれますか。

- 学習活動が停滞したときは、整理を

- ・ 学習活動が停滞したときに、考える内容を焦点化したり、方向を示したり、原点に立ち返らせたりする等、適切な整理を行う。

- 正しい・間違いだけに焦点を当てないで「誤答から学ぶ」雰囲気づくりを

惜しかったね。でも、大きなヒントになるね。みんなのために、どうしてそう考えたか教えてくれる。



- 「ゆさぶる」ことで、知的好奇心の刺激を

- ・ 子どもが確信している「正解」に対して、異論を唱えてみる。

えっ、本当にそうなのかな。どうすれば確かめられるかな。

- ・ あえて事実と反することを投げかけ、それが間違っていることに気付かせたり、反論させたりする。

先生は〇〇と考えるけど、誰か根拠をあげて反論できるかな。



〇〇の場合にも当てはまるのかな。

※ 助言に見られるよくない例

- ・ 具体性のない助言「もっとがんばれ。」
- ・ 考えさせる時間を十分に与えないで、指示ばかりする助言

ワンポイント！

教師の沈黙が子どもの思考を促す

発問や助言の後、「間」をとって考える時間を確保していますか。次から次に問いかけたり助言したりすると、子どもはじっくりと考えられなくなります。少し困難な課題に自分で取り組ませる「間」を設定することは、子どもに、粘り強く考える態度や挑戦する態度を培うことにつながります。「仕掛けて待つ」姿勢を大切にしましょう。

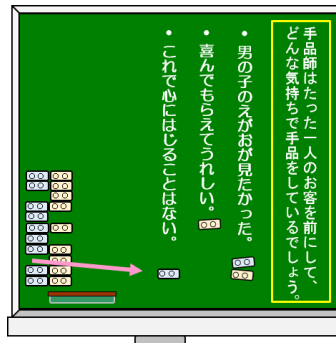
Ⅱ-3

指名、発言の取り上げ方

発言すると授業が楽しい！聞いてくれるとうれしい！

● 子どものやる気の出る指名をする。

- 顔を見て名前呼びましょう
 - ・ 「はい、次」と言われるより、「はい、〇〇さん」と指名された方が、子どもは温かな気持ちになり、学習への意欲が高まります。
 - ・ 人間関係ができてから大丈夫と思い込んでいませんか？呼び方に差を付けず、公平な呼び方で指名しましょう。
- この授業でまだ発言していないのは誰かを意識してみましょう
 - ・ 名前プレートを活用するのも一つの手です。黒板に位置付けたり、手元の座席表に貼り付けたりする工夫ができます。



● 目的に合わせて、工夫した指名をする。

- 全員で反復練習する時（ドリル・発声練習など）
 - ・ 基礎・基本の定着を図ることができるように、全員に発言の機会を設ける。
 - ・ 最初に指名の順番を伝え、一人ずつ指名する間を省くことで、授業にリズムが生まれるようにする。
- 経験や感想を話し合う時
 - ・ 自分なりの意見や考えを発言すればよいことを伝え、挙手しやすい雰囲気を作る。
- 学級全体で考えを深めていく時
 - ・ 指名の順番を考えるために、ノート指導や机間指導を通して、あらかじめ子どもの考えを把握しておく。
 - ・ 学習のねらいに迫る考えやその子なりの頑張りを認め、意図的に指名する。
 - ・ 一人一人の学習状況を把握し、指導に役立てるために座席表を活用するのも効果的である。
- 発表が苦手な子どもに自信を持たせたい時
 - ・ 読む部分や指名する順番などを伝えて、見通しを持たせる。
 - ・ モデルを示した後に指名するなど、発表しやすい環境を整える。

思ったことをみんなに話してみよう。
あなたの考えを聞きたいのよ。



次は、新しい発想で書いていた〇〇さんを指名しよう。



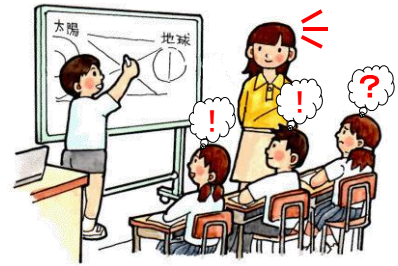
あの子を指名した後、発表が苦手な〇〇さんを指名しよう。



発言を取り上げ、学級みんなのものにするのは、教師の役割

① 子どもの発言は顔を見て聞く

- ・ 子どもの表情を見ながら、相づちを打ったり、うなずいたりしながら聞くのが原則です。
- ・ 発言を聞いている子どもがどんな表情で話を聞いているかを意識することも大切です。



② 発言内容の共有化を図る

- ・ 子どもの発言した内容を教室全体で共有するようにしましょう。

〇〇さんの提案を、確認のために□□さん、もう一度言ってみてくれますか。

③ 発言のよさを的確に評価し、授業に生かす（内容、態度）

資料を活用して考えられましたね。

〇〇さんの意見とつないで考えたのですね。

④ 発言に対して、意見を促す

そう考えた理由を説明してくれますか。

〇〇の部分をもっと詳しく教えてください。

〇〇さんの意見について、聞きたいことや、つないで話したいことはありますか。

⑤ 発言者の考えを他の子どもの思考の材料にする工夫をする

- 意見の背景や根拠を考えさせたい時

〇〇さんは、どうしてこのように考えたのでしょうか。

- それぞれの意見の相違を考えさせたい時

〇〇さんと□□さんの考えはどこが違いますか。

- 分類して比べさせたい時

〇〇さんの考えとよく似ているのは、どの意見ですか。

- 意見を修正してよりよいものにさせたい時

〇〇さんの意見をもっと具体的にするには、どうすればよいでしょうか。

- それぞれの意見をまとめて考えさせたい時

〇〇さんと□□さんの発言をまとめると、どのようになりますか。

ワンポイント!

「失敗は成功のもと」と捉える雰囲気をつくりましょう

子どもたちが、安心して発表する雰囲気を作るには、友達の発言を嘲笑したり冷やかしたりすることを絶対許さないという教師の姿勢が大切です。「〇〇さんの発言があらたな視点を与えてくれました」の教師の一言があるのとないのでは、子どもたちのその後の取組に違いが出てきます。

まず、教師自身が子どもたちの失敗を成長の過程として前向きに捉え、子どもたちが安心して課題にチャレンジすることができるような雰囲気をつくりましょう。

Ⅱ-4 机間指導

先生と話すと、自信が出てきたよ！

机間指導は何のためにするの？

○ 子ども一人一人の思考を助ける

子どもたちの思考過程は一人一人異なります。解決の見通しが持ちにくかったり、既習の知識などをうまく活用しにくかったりする子どもに対して、個に応じた適切な支援をすることで、自己解決を促したり、学習への意欲を育んだりすることができます。



〇〇さんは〜と考えたのね。さらに、△△と比べて考えてみるとどうなるかな？



いい考えだね。ぜひ、後でみんなに広げてね。

○ 子どもの多様な考えを把握し、後の展開に生かす

子どもの考えを把握し、取り上げたい考えや取り上げる順番などについてプランを立てることで、効果的・意図的な指名ができます。

○ 教師と子どもの人間関係を深める

個別に励ましたり、温かい言葉をかけたりして、丁寧に指導することで、信頼関係を築くことができます。

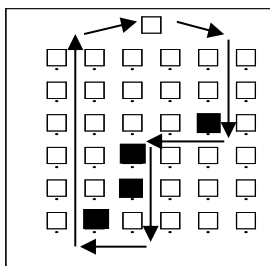
さっきのあなたの発言、とてもよかったわ。



ねらいをもって机間指導する。

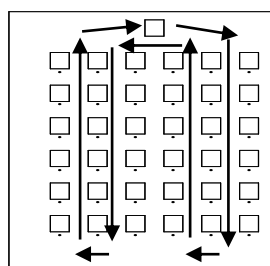
★ 次の例から、日々の机間指導を見直してみましょう。

【ねらい： 普段、発表の少ない子どもが自信を持ち、発表できるようにする。】



- ・ 全体を見渡して全員がノートに考えを書いているか確認し、鉛筆が止まっている子ども等、関わる順番やコースを決める。
- ・ 赤ペンでよいところに○を付けて認め、自信がもてるようにする。
- ・ 改善したらよい点について助言し、励ます。
- ・ よい考えであるため、みんなに紹介してほしいことを伝える。

【ねらい： 子どもの多様な考えを把握し、後の交流活動に生かす。】



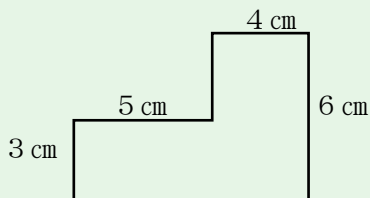
- ・ どのような考えをしているか座席表などに記入しながら見て回り、発表順やグループづくりに役立てる。
- ・ 多くの子どもに共通のつまずきがある場合は、全員に指導する。
- ・ 一人一人のよさは大きく称賛し、つまずきは適切に指導する。

一人一人の学習過程を評価し、個別に指導することで自己有用感を高める。

★ 机間指導で把握した子どもの状況を、授業展開に生かすことができます。

【例】 下の図形の面積の求め方について、一人一人が自己解決する授業場面（第4学年算数「面積」）で考えてみましょう。

教師は机間指導で、Aさん、Bさん、Cさんの考え方を把握しました。全体で話し合う場で、3人の子どもたちが自信を持って発表できるように、ノートに○を付けたり、考え方のポイントを明確にできるように指導したりしました。

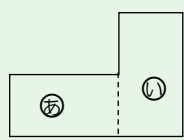


Bさんの考えに対して

$$3 \times 5 = 15 \quad \textcircled{a} \quad \textcircled{b}$$

$$6 \times 4 = 24 \quad \textcircled{c} \quad \textcircled{d}$$

$$15 + 24 = 39 \quad \underline{39 \text{ cm}^2}$$



ノートを見るとBさんの考え方がよく分かるわ。友達に説明する時にも役立つね。

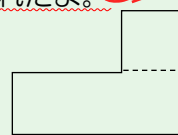
Aさんの考えに対して

よこに線を入れたよ。①

$$3 \times 9 = 27$$

$$3 \times 4 = 12$$

$$27 + 12 = 39 \quad \underline{39 \text{ cm}^2}$$



横の線って、どこに線を入れたの？

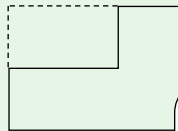


Cさんの考えに対して

$$6 \times 9 = 54$$

$$3 \times 5 = 15$$

② $54 - 15 = 39 \quad \underline{39 \text{ cm}^2}$



ひき算って、いい考えだね。どこからどこをひいたのか、ぜひ、隣の友達に説明してごらん。

机間指導の留意点

- ・ 全体への支援が必要か、個別な支援が必要かを判断しましょう。同じつまずきが見られた時などは、なぜ、子どもがそのつまずきをしているのかを考えた上で、再度、全体へ確認や指導をしましょう。
- ・ 前から見渡す中で、関わる子どもを決めましょう。関わる時には、腰をかがめて子どもの目線で接しましょう。
- ・ 赤ペンを持ってノートに○やコメントなどを書き込みましょう。
- ・ よい点を認めたり励ましたりして、子どもが安心感や自信を持てるようにしましょう。
- ・ 助言を求めやすい温かい雰囲気をつくりましょう。
- ・ 座席表などを活用しながら、一人一人のつまずきや変容を計画的、継続的に観察・記録し、個に応じた指導に役立てましょう。



ワンポイント！

1時間に1回は、気になる子どもの所へ

1時間に1回は、気になる子ども、特に課題を抱える子どもの所へ行きましょう。子どもの特性に合わせた先生の適切で温かい関わりは、子どもたちの自信を育むとともに、その子どもに、その授業での居場所と安心感を与えます。

Ⅱ-5

板書

黒板を見ると授業の流れや要点が一目で分かるよ！

★ 「板書の基本」

- 正確で丁寧な文字を書きましょう。
- 子どもの実態に合わせた文字の大きさを書きましょう。
- チョークの色は白色を基本とし、大切な言葉を黄色で、赤色や青色で枠や線をかくなど、その教室のどの子にも見えやすい配色、線の太さにしましょう。
- 学習のめあてと、めあてに対応したまとめを書きましょう。
- 子どもたちの考えの相違点や変化が分かるように工夫しましょう。

1 単位時間の学習内容が、すっきり収まるように、書くことを整理しましょう。



● 授業後に自分の板書の過程を振り返る。

- 授業後の板書を振り返る習慣をつけることが板書の技術向上につながります。上記の板書の基本に加え、次のような点でも自分の板書を見直してみましょう



- 子どもが分かりやすい文字量になっているか。
- 子どもの反応まで、あらかじめ掲示物にしていないか。
- 黒板から一番遠い席から見て、読めない文字はないか。
- 本時の学習内容の中心が、黒板の中に位置付いているか。
- 大切な言葉や内容が強調されているか。
- 子どもたちの発言を端的にまとめて書けているか。

- 子どもからの視点や学習内容を踏まえて板書のルールを見直しましょう



教科によって、黒板に書くルールが決まっていると、学習内容が振り返りやすいな。

主に縦書きに板書する国語や道徳でも、場合によっては上から下に展開するときもあります。指導計画や用いる資料などに応じて書く方向を考えることが大切ですね。



板書を構造化する。

学習内容や学習方法、児童生徒が学び合う場、授業の流れや子どもたちの考えの変化、ノートへの記録などを意識して「何を、どこに、どのように書くか」などの板書の構造を考えましょう。

<板書例>

- 子どもが参加する板書で、主体的な学習を進めましょう
 - ・ ネームプレートなどを活用して、子ども一人一人の立場を明確にする。
 - ・ 短冊カードやミニホワイトボード、吹き出しなどを活用して、子どもの意見を位置付ける。
- 学習したことの記録として、学習過程や結果が分かる構成にしましょう
 - ・ 前時までの学習の掲示物を生かして、単元のつながりを意識したり、本時の課題解決の手がかりとしたりすることができるようにする。
 - ・ 学習した事項の関係性が分かるようにするために、関係を矢印で示したり、内容のまとまりに小見出しを付けたりして整理する。

板書テクニックをさらに高める。

- 黒板以外も活用して、学習の効果を高めましょう
 - ・ サイドボードや掲示物などを活用して、学習への興味や関心を高める。
 - ・ 前時までに学習した内容や、参考になる資料などを背面黒板などに掲示する。
- 黒板にかいた内容を使った指導で学習の効果を高めましょう
 - ・ 授業の終末場面で、板書を用いて授業のまとめをさせる。
 - ・ 板書をデジカメで記録して印刷し、掲示したり次時の導入で確認したりして単元の学びの流れを捉えさせる。

ワンポイント！

子どもの考えがあふれる黒板に

授業に子どもが学び合う場を設定することは、授業づくりの基本です。しかし、音声言語のみによる学び合いは、集団で思考した記録が残らず、内容の理解でつまづいてしまった子どもや記憶が苦手な子どもは全体の学びに追いつけなくなります。学び合いのキーワードを教師が記録したり、子どもが考えを板書したりするようにして、学習集団で考えを深めてゆく軌跡が見える黒板になるようにしましょう。

Ⅱ-6

ノート指導

ノートを見れば自分の学びの足跡が分かるよ！

目的に応じた書き方を指導する。

ノートに記録する目的は見た目に美しくまとめることではありません。「何を書くのか」「何のために書くのか」を明確にさせて、目的に応じた書き方を指導しましょう。

<目的>

習ったことを書きとめる。

1時間の授業の要点を整理し、後で見直すために書く。

考えを表現したり、深めたりする。

予想、調べて分かったことや考えたことなどを書く。

練習して定着を図る。

漢字や英単語、計算問題などを繰り返し練習して身に付けるために書く。

<指導のポイント>

- ・ 要点が整理された構造的な板書をする。
- ・ 重要語句は、色を使って書き、解き方や考え方などのまとめの文章は、線で囲むよう助言する。

- ・ 「自分の考え」を書く時間をとる。
- ・ 「友達の考え」を書き、自分の考えと比べさせる。
- ・ 「事実」と「考え」や「まとめ」と「感想」など、整理して書くべきものは助言する。
- ・ 間違いは消さずに二重線などで訂正させる。

- ・ 「5分間で」「10回ずつ」など、具体的に指示する。
- ・ どこで間違えたか分かるように、思考の過程（補助計算など）も書き残すよう助言する。

学びの振り返りができるような書き方を指導する。

「前の時間は何を学習したかな？」と聞いたとき、子どもたちはノートを見て確認しようとしていますか？子どもが自らの学びを振り返ることができるように書き方の指導を工夫しましょう。

○ 振り返るためには、目印が必要！

(小学校の例)

小学校ではよくノートの左端から1ます空けて縦に線を引かせ、学習課題やまとめなどの印を書かせるようにしています。校内で指導方針を統一すると効果的です。



11/2
P 34

学

自

友

ま

「日付」「教科書のページ」「問題番号」などは、位置を決めて書く。

直角三角形の面積のまとめ方を考えよう。

長方形にしてもとめる ← 長方形にしてもとめた後、半分にする
 ~~$3 \times 4 = 12$~~ 答え 12 cm^2 ← $3 \times 4 \div 2 = 6$ 6 cm^2



半分に切って合わせて長方形にする

$3 \times (4 \div 2) = 6$ 6 cm^2



直角三角形の面積は **底辺×高さ÷2** でもとめることができる。

「学習課題（問題）、めあて」「予想」「自分の考え」「友達の考え」「まとめ」などは、印や書き方を決めて、黒板にも同じように板書するとよい。

ノート指導を通して、子どもの学ぶ意欲を高める。

ノートは子どもが書くものですが、学ぶ意欲を高める上では、仲間の承認、教師の助言や励まし、保護者の温かい言葉かけなどが大きな役割を果たします。

○ ノートを点検・評価し、助言や励ましの言葉を書き添えましょう

<例>

- ・ 子どもの気付きを評価するとともに、他の見方や考え方のヒントを書き添えることで、子どもの考えの広がりや深まりを促す。
- ・ 誤字や記述の誤りの訂正、内容の補足をする。
- ・ 子どもの変容や成長を見逃さず具体的に褒める。
- ・ ノートの使い方の工夫や学習に取り組む姿勢のよさを具体的に褒める。



たかし君がさか上がりをしている様子を見ていると、鉄ぼうをおなかに引きつけるようにしていました。
友達の手を使い方をよく見ていますね。

【具体的に称賛する例】

つなぐ電熱線を2個にすると抵抗の値が大きくなるのが分かりました。
電熱線はどのようにつないでもそうなのかな？

【考えの広がりや深まりを促す例】



ノートを活用して、学級全体の子どもの学びを高める。

○ 授業で子どものノートを活用しましょう

<活用例>

- ・ 子どもがノートに書いた内容を確認し、学級全体での意見交流によって考えが深まるように、発表する順番を工夫する。
- ・ 教材提示装置などでノートを大きく映して発表時に活用させる。
- ・ 互いのノートを見て、意見や感想を話し合う場を設定する。
- ・ 単元の終わりに振り返りの時間を設け、ノートを基に新たに分かったことや考えの変化を確認させることで、子どもが自分の変容を確かめられるようにする。



ワンポイント！

ノートを通して家庭と連携し、子どもを育む

保護者は、子どものノートを見たときに、級友からの意見や感想、教師からの助言や励ましの言葉が書き添えられていたら、教師の日々の指導や子どもの学びを実感するものです。また、子どもの取組のよさや考えの深まりを認める言葉があると、保護者は授業内容について子どもにたずね、頑張りや褒めることにもつながります。懇談会などの機会に、ノートを基に子どもの頑張りや話を試してみてもいいでしょう。

Ⅱ-7

グループ学習

今日、自分たちだけでできたから、明日はきっと一人でできるはず！

● 「こんなグループ学習を成立させてみたい！」と率直に教師の願いを子どもに語る。

〈例〉分かったことの「教え合い」「話し合い」から分からないことの「学び合い」「聴き合い」へ

★ **夢中！**
夢中になると、自然と腰が浮き、友達との距離が縮まっている。

★ **自立！**
先生の支援がなくとも問題解決する自立への第一歩を踏み出している。

★ **向き合う！**
互いに視線を逸らさず、誰の意見も流さず、コミュニケーションが成立している。

★ **気軽！**
クラス全体で話し合うより、発言機会が増え、気軽に話し合っている。



★ **集約！**
各々の考えをグループの意見として集約・表現する台紙が用意されている。

● 「何のためのグループ学習か？」教師の意図を明確にする。

- 一人一人の立場や意見を確かにして深めたり、新しい考えに気付き広げたりするため
 - ・ まだしっかり固まってない考えや理解の途中の段階の考えを対話の中で表現させ、互いの考えを深めたり広げたりさせたい。
 - ・ 友達との交流を通して、「賛成」「反対」「似ている」「異なる」「結論は同じだが理由は異なる」など、立場や意見をはっきりさせたい。
 - 一人一人の活躍の場を増やすため
 - ・ 課題解決を各グループで分担したり同時進行したりすることにより、一人一人の活動量（実験、観察、制作、意見の表出などによる参加の機会）を保障したい。
 - 対話的な問題解決を通して、共に学ぶことの良さを実感させるため
 - ・ 「同じ考えは心強い」「異なる考えは自分の幅を広げてくれる」「友達が予想外の考えを持っていた」など、共に学ぶ仲間の存在を実感させたい。
 - ・ 一人では解決が難しいことや気付かないことも、仲間となら解決したり、気付いたりできる体験をさせて、「『一人でできる力』と同じくらい『みんなとできる力』が大事だ」と実感させたい。
 - ・ 自分たちで自立して学ぶ力試しの場にし、自信につなげたい。
- ★ 意図を明確にしたら、単にグループ学習の時間をとるだけでなく、その意図を実現するために必要な「仕掛け」を考えましょう。



効果的なグループ学習のために

- 素朴な疑問や感じたこと、確認したいことについて気軽に相談できる機会を増やす
 - ・ 「子どもの反応が鈍くなったな」と感じたら…
 - 「その場で近くの人と少し相談してごらん。」(1分程度でも十分！)
 - ※ 表現物を用意しなくてもよいから、机を合わさなくてもよいから、後でグループごとの発表機会を設けなくてもよいから、1時間に一度は相談機会を設けましょう。
 - ・ 「様々な考えに気付かせたい！」と思ったら…
 - 「ノートに考えを書いた人から自由に相手を見付けノートを交換して交流しましょう。」
 - ※ ノートを交換した相手にサインをもらうなどの交流の仕方を工夫しましょう。
- 「教え合い」から「学び合い」へ、「話し合い」から「聴き合い」へ
 - ・ 教える、教えられるの立場が固定化すると、教える子の負担になり教えられる子を受動的にしてしまうおそれがある。

- ・ 分かったこと(どうすれば解決するか)よりも、分からないこと(何が問題か)を話題にして「学び合い」「聴き合い」を大切にする。

(例) 一人一人の意見が流されないように、意図的に一つの机に3人組を作り、互いの声が届きやすい場を設定したり、異性でグループを作れるように男女市松模様で机を配置したりする。



(例) 特に、小学校低学年の聴き合いでは、ペアを基本とし1時間の授業の中で複数回設定する。

- 意見の位置付けを明確にするため、結論から述べる話し方、立場を聴き分ける聴き方を助言する
 - ・ 伝わらない原因には、話す内容の意味が伝わっていない場合と意味は分かるがそれを述べている意図(賛成、反対など、話の流れの中での意見の位置付け)が伝わっていない場合がある。

『賛成です』『反対です』など短く結論から話すときよく伝わるよ。」

「言葉で伝わりにくいな、と思ったら言葉を補う絵や図を黒板に書いて説明したらどうかな。」

『もう一度、言ってください』ではなく『短くまとめて話してほしいのか』、それとも『詳しく具体的に話してほしいのか』をはっきり求めるといいよ。」

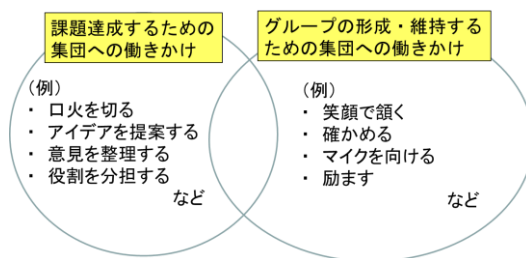
「最後まで話を聞くことは、『あなたには、最後まで話を聞いてもらえるだけの価値がある。あなたが大事。』を相手に伝えているのと同じことなんだよ。」

- グループ学習におけるよい学び方を評価する
 - ・ グループの課題達成や形成維持に役立つ集団への働きかけを価値付けする。

「今日、発言の少ない友達に意見を求めたのは、誰でしたか？」

「笑顔でうなずくなど、友達の意見をしっかり受け止めていた人は、誰でしたか？」

「課題解決のために、新しい提案をしたり、議論の口火を切ったりした人は、誰でしたか？」



ワンポイント!

グループ学習の間、教師は何ができるだろう

教師が深く介入しすぎて、子どもたちの大事な自立につながる協働の場をつぶしてはいけません。時には見守ることも大事な支援です。教師にとって期待する反応ばかりを導き出そうとする支援は敵に愼み、反応把握に努めます。そして、振り返りの際に、「どんなことに困った?そんな時、どうするのがいいのかな。」と子どもと共に問題解決する中で新しいルールを作ったり、「〇〇さんの学び方のよさが分かる?」と価値付けしたりしていきたいものです。

Ⅲ-1

学習意欲を高める指導

自分で決めた！できた！みんなで学ぶって楽しい！

学習意欲はどんな場面で高まるのでしょうか？

ぼくは〇〇に賛成です。その理由は・・・



私もできるようにになりたい！



〇〇さんの説明で、よくわかったわ。



みんなと学ぶと楽しいな。

★自分で選択したり判断したりできるとき（自律性）

★できるようにしたいと感じているとき（有能感）

★安心して学ぶことができると感じているとき（関係性）

子ども自身が選択したり、判断したりできる場面をつくりましょう。

- 子どもが選択・決定する機会をつくる
 - ・ 子どもに、調べたいことや挑戦したいことを選択させる。
 - ・ 賛否や評価など、子どもが自分で判断する学習場面をつくる。

みなさんは、どちらの考えを支持しますか。その理由は？



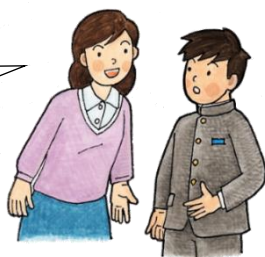
- 子どもの言葉で授業をつくる、一人でも多くの子どもの声を聞く
 - ・ 子どもの発言を引き出す発問や助言を心がける。
 - ・ 子どもの発言を板書に生かす。
 - ・ ペアや3～4人のグループで、目的を明確にして話し合わせる。



次は、私の番ね。ええと私の考えたことは・・・

- 子どもの否定的な感情も受け止める
 - ・ 面白くなさそうにしている子どもを頭ごなしに指導せず、状況を確認する。

あまり興味がなさそうね。何か、困っていることがあるのかな？



なかなか上手いいかないようね。慌てずに自分のペースでやってみよう。

子どもが、「できるようになりたい」「挑戦したい」と思える工夫をしましょう。

○ 目指すべき姿をイメージさせ、学習の仕方に見通しを持たせる

- 子ども自身が成長を実感できるよう、どんな自分を目指せばよいかを明確にしておきましょう。



夏休みの思い出を、ALTの先生に英語で紹介できるようになりましょう。では、まず、どんなことから始めればいいでしょうか？



○ 適度に挑戦的な課題を与える

- すぐには分からない、できない。でも、粘って取り組めば何とか分かるかも、できるかも、と思えるような課題や活動を取り入れてみましょう。



こんな問題もありますよ。少し難しいけれどできるかな？

○ 振り返りを充実させる

- 単元や授業の終末で、子ども自身が成長を実感することを積み重ねることが、次の学びに対する意欲を支えます。

今日は、〇〇についてみんなで考えました。学習を通して、学んだことやできるようになったことを、振り返ってみましょう。



子どもが、安心して学ぶことができる関係性をつくれるよう働きかけましょう。

○ 互いに気遣うように促す

- 互いに気遣える集団をつくるのが、自分自身が成長できる環境であることを伝えましょう。

お互いに教え合っているね。だから、みんなが成長できているんだね。

これは、〇〇ということだと思うんだ。ほら、ここを見て。



なるほど、そういうことなのか。

○ お互いに認め合ったり褒め合ったりさせる

- 子どもは、友達に認められたり褒められたりすることで、満足感を感じます。

今日は、誰のどんな発言が課題解決に役に立ちましたか。



グループで学習を振り返り、お互いのよさを伝え合ってみましょう。

ワンポイント！

生徒指導の三つの視点

生徒指導提要（文部科学省）では、一人一人の児童生徒を生かした意欲的な学習の成立には、「①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助することの三つの視点に留意すること」の重要性が述べられています。授業を通じた生徒指導に努めましょう。


Ⅱ-2

考える力を育てる指導

先生、こう考えるといいと思う！

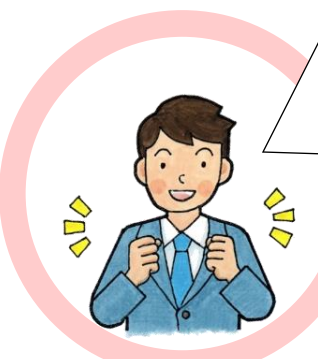
● 思考力の働いている子どもを具体的な姿で描く。

○ その単元、あるいは本時の学習で、どのような思考ができればよいのか、目指す子ども像を具体的に描いてみましょう



みんなの考えつかないことが
ひらめく子をもって、思考力
があるよね。

たくさん発言する子は
思考力があると言えるわ。



足の数や体のつくりに着目して生き物
を比較し、昆虫とそうでない生き物を
見分けられる子どもにしたい。
(小3・理科)

・ 目指す子ども像を明確にすることで、必要な指導が見えてきます。

● 考えたくなる課題を設定する。

○ 考えたくなる課題や考える必要感のある課題を子どもが見つけられるように、考えるきっかけとなる教材を提示したり、それまでの学習を振り返らせたりします

お米の生産量は毎年増えているのに、どうして作業時間は減っているのだろう。



Aさんの作品は、いろいろな形が組み合わさっていて面白い。私も形を工夫して作品を作りたい。

・ 既存の知識や経験とのずれを明確にしたり、ゴールへの憧れをもたせたりしましょう。

・ 少し困難な課題（「がんばればできそう！」）が、解決への意欲を誘います。

● 課題解決の手掛かりに気付かせる。

① 「考える視点」

国際問題を考える時には、自分の国だけじゃなくて、相手の国の立場からも考えるといいんだな。



② 「考える手順」

表の変わり方のきまりを見付ける時には、小さい場合から順々に調べるといいよ。



正方形の数 (個)	1	2	3	4
ぼうの数 (本)	4	7	10	13

子どもが考える場面を十分に確保する。

○ 子どもたちが考える時間の確保

- ・ 教師は、発問の後、矢継ぎ早に言葉を発していませんか？考える間を大切にしましょう。
- ・ 5分の説明よりも1分の沈黙で自分の意見をもつ時間を確保しましょう。
- ・ 思考力を育むには、「子どもたちが発言する時間 > 教師の話す時間」を目指しましょう。

○ 話し合う場の確保

- ・ 「話し合う目的」と「課題解決の手掛かり（視点や手順など）」がはっきり共有されると、話し合いが活性化します。

大造じいさんが、なぜ銃を下ろしてしまったのかということについて話し合うんだっけ。

行動が変わった原因は、その直前の文を見ると手掛かりがあるかもしれないよ。



大造じいさんは、はやぶさの前に残雪が現れたのを見て銃を下ろしているよ。それなら…。

課題解決の過程を振り返る。

○ どんな考え方が役に立ったのかを振り返り、それを自覚させる機会を大切にしましょう

途中で困ったけれども、黒板にあるAさんの考え方がとてもよいヒントになった。



大事な考え方は、ノートにも書いておこう。

別の物語を読む時にも、この考え方が使えそうだね。

思考が進みにくい子どものためにひと工夫する。



どのように考えたらいいのか分からない…。

学習している内容だけでなく、課題解決の手掛かり（視点や手順など）や既習事項、友達の発言などを黒板に書いておきましょう。



ぼくは、給食場の調理員さんの、衛生面の工夫がたくさん分かりました。

例えば？

…。例えば、肉を炒めている途中で温度計を使って…。



子どもたちの発言が行き詰まったとき、「例えば？」「つまり？」「だから？」「そのわけは？」などの適切な接続詞を入れ、思考を促しましょう。

ワンポイント！

聞くことから始まる —「聞き手は聞いて育ち、話し手は聞いてもらって育つ。」（芦田恵之助）—

友達は何かいいことを言いそうだという相手への敬意。友達の発言を聞いてみたいという気持ち。大事なことはうなずいたり、視線をしっかりと返したりしながら聞くという姿勢。受容的な雰囲気の中で言葉は生まれます。「話すこと」を支える「聞くこと」を大切に。「聞くこと」の指導から始めてみませんか。

Ⅲ-3

子どもの実態に合わせた指導

なるほど、そういうことだったのか！

● 目の前の子どもを意識することが基本

どんなに素晴らしい内容も、指導方法が目の前の子どもに合っていないければ、確かな学力の育成は実現できません。子どもの実態に合わせた指導について確認しましょう。



子どもたちのことをどれだけ分かっているんだろう・・・

- ・ 子どもの興味・関心、学習の理解に関する状況は？
- ・ 生活習慣や家庭生活の状況は？

まずは子どもの状況を知ることからスタート。

客観的な調査結果や記録はもちろん、教師間の何気ない会話からの情報や子どもからの情報を集めておくで大いに役立ちます。その上で、子どもの普段の発言、態度、ノートなどから、次の授業での子どもの反応を念入りに想定して授業に臨み、必要な「仕掛け」を考えましょう。

先日の理科の授業では、一人でできない子はペアで確認させながら進めると分かったようです。

社会の授業ですが、どこでつまずいているかを事前に想定して、いくつかのヒントカードを準備しておく、調べ学習のきっかけになっていたようでした。



昨日、算数のテストを採点しました。みんなできていると思っていたのですが、子どもたちはわり算が思ったよりできていなくて・・・。
どうしてここでつまずいているかを考えてみると・・・。

これまでの授業記録や観察記録、小テストや定期テスト、各種の学力・学習状況調査の結果や子どもの記述・回答状況などをもとにし、教師の教えた感覚と子どもの学んだ実態の間にズレがないか丁寧に確認しましょう。

● 授業に向かう子どもの様子に注目

○ 子どもの表情はどうですか？課題に向かおうとしていない子どもはいませんか？

- ・ 一人一人の子どもの顔をゆっくり観察し、授業前の声かけをしてみましょう。

いつも元気なのに、今日はどうしたの？



朝からちょっと体調が悪くて、朝ごはんも食べることができなくて・・・

○ 既習内容の定着に個人差があり、課題がつかめていない子どもはいますか？

- ・ 前時の学習内容をペアやグループで説明したり、確認したりするような活動を取り入れてみましょう。

関ヶ原の戦いはどんな勢力の争いだったっけ・・・



豊臣家を守ろうとする勢力と、それを倒そうとする徳川家康を中心とした勢力の争いだったね。

授業を進めていくと、様々な反応を示す子どもがいます。学習に取り組む姿から子どもの状況を把握し、適切な支援や活動の場の設定について確認しておきましょう。

○ 学習活動中、動きの止まっている子、落ち着かずきょろきょろしている子はいますか？

(その子は集中して考えているのか、それともどうしてよいか分からず困っているのか、また、課題を既に終えて次にすることがないのでしょくか？)

- ・ 内容の理解が進んでいない場合は、ヒントカードの活用や適切な助言(どこを見るのか、何をするのかなど)をしましょう。
- ・ 進んでいる子には、他の方法はないか考えさせたり、発展的・応用的な学習へのきっかけを示したりしましょう。
- ・ 子どもの学習状況により、意図的、計画的な指名をしましょう。



○ 子どもが置き去りになっていませんか？

(計画通りに進めたいあまり、子どもの様子を見逃していませんか？)

- ・ 個別の支援をしてもなお、子どもの理解が不十分な時には思い切って指導計画を変更してみることも大切です。



次はああして、こうして・・・

その前から分らないのに・・・



授業での類似課題や宿題の出し方の工夫

授業中、みんなで取り組み、その課題の解決はできても、後で類似課題に個人で取り組ませると、理解度や解決力は一人一人異なることがあります。現時点で、どこまでが分かって(できて)、どこからが分かっていない(できない)のかを教師が把握するとともに、子どもにも自覚させ、改善につなげるために、授業時間中に個人で取り組む類似課題や宿題の出し方を工夫しましょう。

- 授業の後半や単元内のある授業時間内に、類似課題に個人で取り組む時間を確保しましょう
- 共通課題と選択課題を組み合わせ、子どもに合った学習ができるようにしましょう
- 自主学習ノートに、子どもが調べたり、学習したりしたことをまとめることができるようにしましょう

子どもの学年や発達段階に合わせて、ページ数などの課題量や、自主学習のまとめ方の例などを示し、子どもが自分で創意工夫しながら学習習慣が身に付くようにしましょう。

ワンポイント！

「子どもを生き生きと成長させるのは教師の適切な助け」

「学習の主体者である子どもたちは、教師の適切な助けを借りることによって、自分を生き生きと成長させ変化させていくことができるのである。」(斎藤喜博)

教師の適切な助けが、子どもの目を輝かせます！

IV

子どもの立場に立った褒め方・叱り方

次も頑張ってみようかな

一人一人を認めてから、褒める、叱るという姿勢が子どもの変容を促す。

- ・ ささいなことでも教師から褒められたことは、一生忘れないことがあります。また、心から叱ってくれたことが、後の行動により影響を及ぼすこともあります。
- ・ 褒めて子どもを伸ばすこと、叱って行いを改善させることは、教師の重要な仕事です。そのためにも、子どもの言動等を適切に価値付ける責任が教師にはあります。
- ・ 子どものために叱りますが、いつも叱られてばかりでは、自信を失って伸び伸びと行動することができなくなります。また、褒めてばかりでは、効果がない場合もあります。
- ・ 褒める際、叱る際の教師の構えとして重要なのが、一人一人の子どもを認めるという姿勢です。認めてくれていると感じた子どもたちは、前向きに自分の行動を改善しようとしていくことでしょう。

褒める場面を見逃さずに褒めきる。

褒める場面は、意識していないと見逃してしまう場合があります。よい行いをしたとき、その場で褒めきることが効果的です。その際には、教師が褒めることの基準を明確にもっておく必要があります。以下のような場面を教師は意識しておき、その場で効果的に褒めるようにしましょう。

○ 努力する姿を認める

「できる」「できない」といった結果よりも、よりよくしようとしているその過程に着目しましょう。たとえできなくても、それに向けて取り組んでいる過程を認めることは、子どもを大きく勇気付けます。



○ 小さな言動を認める

目の前で良い行いをしたときは、褒めることができますが、見ていないところでしているよい行いを褒めることは、意識していないとできません。小さな言動を見逃さないようにしましょう。



○ 集団に対して認める

時には、学級やグループなど集団を褒める方が効果的な場面もあります。集団を褒めることは、子どもが所属している集団に対する肯定的な意識を芽生えさせることにもつながります。また、みんなの前で褒められることは自信につながりますが、みんなの前で褒められたり、大げさに褒められたりすることが苦手な子どももいます。名前を出さずに褒めたり、学級やグループなど集団のこととして褒めたりするといった配慮も必要です。



子どもなりの理由を受け止めた上で、叱られた理由を納得させる。

子どもの言動には、全て理由があります。ある言動の背景には、何日も前のことや、家庭での出来事があることもあります。「分かっているけどできない」時もあります。その際には、まず、子どもなりの「今回の言動の理由」をたずね、言わせる中で考えさせ、受け止めた上で、諭すように叱ったり、絶対に許されないということを伝えるために、厳しく叱ったりすることが大切です。

叱る目的は、子どもたちをよりよい方向に導くことです。そのためには、指導に一貫性をもち、子どもの人間性を否定するのではなく、その言動を捉え「子どもの成長を促すため」という意識を持って、子どもが叱られた理由を納得し、変わりたいと思えるようにすることが不可欠です。

例えば、次のような行いをしたときに、先生は厳しく叱ることを示しておくことで、日頃から子どもが意識することができます。

先生が、厳しく叱る三つのこと（例）

- 友達を馬鹿にしたとき
- いじめや仲間外れをしたとき
- 命に関わる危険な行いをしたとき



ワンポイント！

逃げ道を残すことも大切

悪いことをしたと自分で分かっている子どもの場合、次々と責め立てて追い詰めると、最後には感情で返してくるようになります。「いつもは〇〇ができるのに、今日はどうしたの」や、「次はこのようなことがないことを信じているよ」などのように、反省を促すと同時に、逃げ道を残したり、次の取組への期待を伝えたりすることを意識して指導することが大切です。

授業づくりを支える

学級経営チェックリスト

授業づくりの基盤は学級経営です。目指す学級集団像を明確にして、計画的、意図的に学級づくりに取り組む姿勢が大切です。基本的な事柄についてチェックシートを活用して振り返ってみましょう。

私が目指す望ましい学級集団（学級経営方針など）

例 支持的風土をもち、自他ともに大切に作る学級集団
規律を大切に、互いに認め合い高め合う学級集団
目標に向かって、何事にも一致団結して取り組む学級集団 など

4…よくできた 3…できた 2…少し努力が必要 1…かなり努力が必要

■チェック項目 1 子どもへの関わり		前年度	1学期	2学期	3学期
1	時期や教師の都合などによって変わることのない、一貫性、公平性のある指導を心がけている。				
2	学校行事などに向けて学級全体で取り組む際、学級集団としての目指す方向（目標）を子どもの意見を取り入れながら明確にしている。				
3	係活動や委員会活動など、一人一人が主体的に活躍する場や役割をつくり、その取組を確実に評価している。				
4	きまりの意味やそれを守る意義を子どもが理解する工夫をし、ルールを守っている子どもをしっかりと認めている。				
5	効果的な褒め方になるよう工夫している。（人前で褒める、個人的に褒める、他の教師にも伝え褒めてもらう、保護者にも伝えるなど）				
6	教師が評価するだけでなく、子ども同士が相互に認め合う活動を取り入れるなど、支持的風土づくりのための工夫をしている。				
7	休み時間などに、子どもと遊んだり、会話を通したりして人間関係を深めるなど、常に子どもに寄り添うよう心がけている。				
8	気になる子ども（学習面、生徒指導面）に対して、声をかけたり、話を聞いたりする機会を積極的につくっている。				
9	生活ノートへのコメントや欠席した子どもへの電話連絡及び家庭訪問をするなど、一人一人を大切な存在として認め関わっている。				

■チェック項目2 保護者への関わり		前年度	1学期	2学期	3学期
10	保護者の話を共感的に受け止めたり、問題が起こったときだけでなく、褒めるべき事柄など、よい情報も報告したりするよう心がけている。				
11	問題行動が起こったとき、学校の方針を確認した上で、家庭訪問などで保護者と顔を合わせて対応している。				

ワンポイント！

子どもや保護者との人間関係は、築き上げるまでに長い時間がかかる反面、ほんの些細なことから一瞬のうちに崩れることもあります。日頃からの地道な関わりが、学級経営の基盤となる「信頼」につながります。

■チェック項目3 同僚との関わり		前年度	1学期	2学期	3学期
12	互いのクラスの子どもの様子や学級経営の在り方などについて、他の教師と情報交換したり、相談したりしている。				
13	学年主任、生徒指導担当教員、管理職などへの報告・連絡・相談を迅速に、欠かすことなく行っている。				

ワンポイント！

ベテラン教員の学級経営の経験やスキルはとても貴重です。会議だけでなく、気軽に学級経営などについて相談し合える教師集団になるよう、「日頃からのコミュニケーション」を大切にしたいものです。

■チェック項目4 教室環境などの整備		前年度	1学期	2学期	3学期
14	子ども、教師の言葉が入ったものや、クラスで協力して制作したものなどを活用し、掲示物を定期的に貼り替えている。				
15	目印や表示を工夫し、机・椅子やロッカー内の整理・整頓などについて指導している。(欠席者への配布物なども確実に本人に届けられている)				

ワンポイント！

貼り替えられた自分や友達の新しい掲示物を見る子どもの輝いた目……。子どもは、自分たちを大切にしてくれる教師の気持ちを体で感じます。大切にされているという実感は、「問題行動の起こりにくい学級集団」につながります！

チェックリストの活用例 日々の学級経営の中で意識しておくことが大切です。

- ① (年度始め) 前年度を振り返り、自己診断を行う。
 - ② (年度途中) 学期の終了時に、同じ基準で自己診断を行う。
 - ③ (年度末) 各項目の点数の推移を振り返り、次年度への改善に生かす。
- ※ 管理職との面談(目標申告など)においても活用できます。

授業改善 5つの視点

「学びのときめき」のある授業になっていますか？

1 課題設定

少し困難な課題を取り入れ、「挑戦」する態度を育てていますか。

子どもがある目標を実現したいと思い、その目標の実現のために多少の困難さが伴うとき、その事象は子どもにとっての課題となります。

「すぐには分からない。でも、粘って取り組みば何とかできるかも。」と子どもが思うような課題も授業の中に取り入れ、「挑戦」する態度を育てましょう。

拓也さんが作った表の1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答えなさい。

拓也さんが作った表

	1回目	2回目
文房具	201	212
ハンカチ・タオル	49	28
その他	55	50
落とし物の合計	305	290
落とし物の合計の平均値 (1学級あたりの落とし物の個数)	20.3	19.3

平成 27 年度全国学力・学習状況調査 中学校 数学B 5

この問題を解くのに必要な情報はどれかな？



2 見通し

「方法」に加えて、「結果」も予想させていますか。

「どうしたらよいか」という方法の見通しに加えて、「どうなるのだろうか」と、結果の見通しをもたせることで、自分の予測や仮説等が正しいのかどうか「分からないから学習しよう」という学習意欲につながられます。

「授業展開を予め理解すること」だけでは、「授業」は「作業」になってしまいかねません。

どうなるでしょう。
どうしたらよいでしょう。

ドキドキ
ぼくは、こうなると思うよ。
でも、あっているのかなあ…。



3 言語活動

相手意識をもたせて、発言させていますか。

授業で「交流」を仕組む目的は、自分や相手の考えを広げたり深めたりすることです。お互いに意見を「表明し合う」だけでは意味がありません。

どのような理由や根拠をどのような順番で話せば自分の考えが相手に伝わり、理解してもらえるか、という相手意識をもって、発言させることが必要です。

ぼくは…。

ぼくの意見は〇〇です。

わたしの意見は〇〇です。

順番に発表してその後、シーン…。これって「交流」？

わたしは…。



4 振り返り

その授業で自分が何を学び、どう変わったかを実感させていますか。

振り返りでは、学習内容を「まとめ」として振り返るだけでなく、自分が何を学び、どのような変容があったのかを実感できるような工夫が大切です。このような振り返りができると、学んだことを次に生かそうとする、学習意欲もはぐくまれます。

まとめ

学んだことの定着のために重要

受粉したホウセンカの花粉は数分で花粉管を伸ばし始め、時間の経過とともに花粉管が伸びていく。

感想

学習意欲をはぐくむために重要

花粉から管が伸びるなんて予想外で驚いた。細胞が生きていることが実感できた。植物も子孫を残すために懸命に活動している。生命の神秘性を感じられているね。



5 授業全般

その授業で子どもに「身に付けさせたい力」が書けますか。

授業の活動は、子どもに「身に付けさせたい力」を付けるためのものになっていますか。教師が指導しすぎることによって子どもの思考場面を奪ったり、主体性をはぐくむという名目で放任しすぎたりする授業にならないよう、十分注意する必要があります。

めあて(課題)・・・

この過程は「身に付けさせたい力」に対応していますか？

まとめ・・・

たとえば、「力」を教師用の授業案に付箋で貼れますか？

「毎日、成長しているよ。」

あーちゃんという小学生と担任の先生の話です。

日々、失敗をし、それをなんとか乗り越えているあーちゃん。乗り越えていること自体がすごいことなのに、「〇〇さんはもっとうまい。」「〇〇さんは、もっとたくさんできる。」と、自分自身になかなか100点をあげられないあーちゃん。

そんな時、「あーちゃんも十分うまいよ。」と言っても、自分で「うまい」と思っていないから、子ども心は、「うまいよ。」という言葉は受け取ってくれません。

でも、「毎日、成長しているよ。」という先生の言葉は、「うまい。」や「できる。」ではなく、自分自身の変容そのものへの気づきを、この子の心まで届けてくれているようです。

何かを乗り越えたとき、「毎日、成長だね！」と声をかけると、満ち足りた笑顔が返ってきます。

今回の改訂は、義務教育課の指導主事を中核として、県及び市町教育委員会の全ての指導主事の協力を得ながら、昭和51年の「小・中学校新規採用教職員研修の手引き」を起源として毎年作成している「新しく教員となったみなさんへ」や現場の実践等を参考に、平成25年の鈴木文孝義務教育課長時に初めて作成された「さぬきの授業 基礎・基本」をもう一度丹念に検討することで実現しました。

本県の諸先輩方及び現場の先生方、イラスト作成を快諾いただいた佐々木校長先生、改訂に関わった全ての方々の真摯な実践と努力に心からの敬意と謝意を申し上げますとともに、子どもに「学びのときめき」をもたらす授業に向けて、子どもも教師も、毎日、成長し、満ち足りた笑顔が教室に、学校に、溢れ続けることを願っています。

平成29年3月

香川県教育委員会事務局

義務教育課長 矢木澤 崇

さぬきの授業 基礎・基本[改訂版]

平成29年3月発行

香川県教育委員会事務局義務教育課編集者

矢木澤 崇 横田 秀幸 久保 博紀

大原 一仁 黒川 統夫 高尾 明博 山内 秀則

清水 一郎 藪内 康則 北堀 宏 桑原 育子

中田 祐二 東条 直樹 久利 知光 植田 浩之



氏 名